

科目名	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)			ナンバリング	PEB121	授業形態	演習
対象学年	1年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	矢澤香代子	担当教員	大堀昇、木部美知子、○矢澤香代子				

授業の概要	看護場面における対人コミュニケーションの本質について学修する。看護者は必要とされる看護を実践するため、看護対象者との関係性を構築することが大切である。そのため、コミュニケーションのあり方について学修する。具体的には、コミュニケーションに影響を与える成長発達段階、情動、知識、価値観、環境(被災を含む)、ジェンダー、社会的文化的な背景等について、言語的コミュニケーションおよび非言語的コミュニケーション(視線、身振り、表情他)の知識と技術を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは何か説明できる。 2. 演習をとおしてコミュニケーションの構造を理解し、人との関係性について説明できる。 3. 援助的関係性、自己理解・他者理解について説明できる。 4. 聴力・視力・発語・運動機能に障害のある人とのコミュニケーション方法について説明できる。 5. 意思疎通が困難な人・危機的状態(被災など)にある人とのコミュニケーション方法について説明できる。 6. 生活者の生活の場に合わせたコミュニケーションについて説明できる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	講義で使用するスライド資料は、manab@IMUからPDFファイルとしてダウンロードできる。 予習(資料の閲覧)と復習(レポート作成)を必ず行うこと。予習と復習それぞれおおよそ90分の学習時間を確保すること。
ディプロマポリシーとの 関連	<p style="text-align: center;">【看護学部看護学科のディプロマポリシー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマンズムと倫理観を身につけている。 2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。 ○ 3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。 4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。 ○ 5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは何か述べるができる。 2. コミュニケーションの構造を理解し、人との関係性について述べるができる。 3. 援助的関係性、自己理解・他者理解について述べるができる。 4. 聴力・視力・発語・運動機能に障害のある人とのコミュニケーション方法について述べるができる。 5. 意思疎通が困難な人・危機的状態(被災など)にある人とのコミュニケーション方法について述べるができる。 6. 生活者の生活の場に合わせたコミュニケーションについて述べることができ、事例に応じコミュニケーションがとれる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは何か具体的に述べることができる。 2. コミュニケーションの構造を理解し、人との関係性について具体的に述べることができる。 3. 援助的関係性、自己理解・他者理解について具体的に述べることができる。 4. 聴力・視力・発語・運動機能に障害のある人とのコミュニケーション方法について具体的に述べることができる。 5. 意思疎通が困難な人・危機的状態(被災など)にある人とのコミュニケーション方法について具体的に述べることができる。 6. 生活者の生活の場に合わせたコミュニケーションについて具体的に述べることができ、事例に応じ適切なコミュニケーションがとれる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					50%
小テスト・授業内レポート	○	○		○	○		30%
宿題・授業外レポート			○				10%
授業態度・授業への参加			○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の中で実施する課題演習に関する疑問や感想などについては次回の授業でコメントする。 2. 期末試験の評価を含めた最終的な成績に関する総評をmanab@IMUに掲載する。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	コミュニケーションとは(1)	コミュニケーションとは何か、看護におけるコミュニケーション	
	第2回	コミュニケーションとは(2)	コミュニケーションの構成要素 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	
	第3回	コミュニケーションの基本(1)	メッセージの伝達 「聴く」	
	第4回	コミュニケーションの基本(2)	メッセージの伝達 「話す」	
	第5回	看護を実施する時のコミュニケーション(1)	説明と同意 患者の人権・プライバシーを尊重したコミュニケーション	
	第6回	看護を実施する時のコミュニケーション(2)	相手のメッセージを受け止める 「安全安楽・快適な環境であるか」「身体機能の状態」	
	第7回	自己理解・他者理解(1)	ジョハリの窓 自己理解 他者理解	
	第8回	自己理解・他者理解(2)	自己の特徴を知る 自己と他者の共通と相違	
	第9回	受容・共感	受容とは 共感とは	
	第10回	援助的関係性	援助的関係性とは	
	第11回	再構成(プロセスレコード)	再構成(プロセスレコード)とは	
	第12回	再構成(プロセスレコード)の評価	再構成(プロセスレコード)の評価	
	第13回	場面の再構成(プロセスレコード)の記述	場面の再構成(プロセスレコード)記述の実際	
	第14回	場面の再構成(プロセスレコード)の評価	場面の再構成(プロセスレコード)評価の実際	
	第15回	看護場面の再構成(プロセスレコード)の記述	看護場面の再構成(プロセスレコード)の記述の実際 「生活援助技術」食事とコミュニケーション	演習
試験	中間試験は実施しない。			

	回次	テーマ	授業内容	備考	
授業計画	第16回	看護場面の再構成(プロセスレコード)評価の記述	看護場面の再構成(プロセスレコード)評価の実際 「生活援助技術」食事とコミュニケーション	演習	
	第17回	ロールプレイとリフレクション(1)	ロールプレイとは リフレクションとは		
	第18回	ロールプレイとリフレクション(2)	看護場面のロールプレイとリフレクションの実際		
	第19回	障害のある人とのコミュニケーション(1)	聴力障害のある人とのコミュニケーション 視力障害のある人とのコミュニケーション		
	第20回	障害のある人とのコミュニケーション(2)	言語障害のある人とのコミュニケーション 運動障害のある人とのコミュニケーション		
	第21回	障害のある人とのコミュニケーション(3)	認知障害のある人とのコミュニケーション		
	第22回	障害のある人とのコミュニケーション(4)	障害のある人とのコミュニケーション ロールプレイとリフレクション		
	第23回	危機的状況にある人とのコミュニケーション(1)	危機的状況(入院・手術・病名告知・災害等)にある人とのコミュニケーション		
	第24回	危機的状況にある人とのコミュニケーション(2)	危機的状況(入院・手術・病名告知・災害等)にある人・家族とのコミュニケーション		
	第25回	患者教育のためのコミュニケーション(1)	パーソナルコミュニケーション マスコミュニケーション		
	第26回	患者教育のためのコミュニケーション(2)	個別指導 集団指導		
	第27回	協働する人々とのコミュニケーション(1)	情報の伝達 連絡・報告・相談・申し送り・秘守義務		
	第28回	協働する人々とのコミュニケーション(2)	情報の伝達 口頭・文書・電話・伝言・電子メール・簡潔明瞭		
	第29回	年齢・生活の場・健康状態に応じたコミュニケーション(1)	年齢・生活の場・健康状態に応じたコミュニケーション		
	第30回	年齢・生活の場・健康状態に応じたコミュニケーション(2)	年齢・生活の場・健康状態に応じたコミュニケーション 事例展開		
		試験	期末試験を実施する。		
	授業の進め方	講義・質疑応答による授業内容を理解し、課題や状況設定に基づく演習を行い、各授業毎の課題レポートを作成する。			
授業外学習の指示	予習はmanab@IMU掲載の資料およびテキストの指定箇所を熟読し、復習は授業内容を理解するためのノート整理と資料を熟読するとともに、授業内で行った看護技術を各自復習する。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)				

教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(3):基礎看護技術
参考書	授業の中で指示する
参考URLなど	授業の中で指示する
その他	